

# SDGs への理解を深め、新しい社会の担い手となる教育の推進

国立中央青少年交流の家

## I. 趣旨

### 1. 背景

SDGs（持続可能な開発目標）は、2015年の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でより良い世界を目指すための国際目標である。このSDGsの達成に向けた取組は、我が国でも国や企業をはじめ、多方面で広く取り入れられている。特に、教育界ではESD（持続可能な開発のための教育）・環境教育の重要性が注目されており<sup>1)</sup>、当所が所在する静岡県と御殿場市の教育振興基本計画<sup>2)</sup><sup>3)</sup>においても、環境教育の必要性が謳われている。

こうした状況を鑑みて、当所では、SDGsの認知を高めること、並びにその達成に向けた教育に取り組むことは国立の青少年教育施設としての使命であり、社会に対して大きな貢献になると考えた。また、SDGsという国際目標を当所の教育活動に取り入れることにより、当所の考えや思いを多くの利用者と共有しやすくなると考え、SDGsの積極的な推進に取り組むこととした。

そこで当所では、利用団体へ提供する新規の活動プログラムとして「SDGs ミッションウォークラリー」（以下、「本活動プログラム」という。）を開発することとした。

### 2. 本活動プログラムの概要・ねらい

- ①所内に設置された17か所のポイントを団体が設定する制限時間内にできるだけ多く回り、SDGsの目標について知ることを目指す。
- ②ポイントによっては、「ミッション」が設けられており、SDGsや世界で起きている状況を体験的に学ぶことができる。
- ③本活動プログラムは、所内オリエンテーリングなどの既存の活動プログラムの教育効果を基に、SDGsの要素を取り入れた内容となっている。

## II. 指導のポイント

- ①各団体で事前事後にSDGsについて学習することにより、本活動プログラムを学習過程の一つとして位置付ける。
- ②各団体の目的に応じて、活動後に振り返りの機会を設ける。

この二点を団体代表者に示し、より効果的な活動プログラムとなるように支援する。

一方、本活動プログラムを取り入れる目的は団体によって異なる。例えば、「施設利用の最初に所内の状況、施設の配置を知りたい」「班の協力性を高めたい」「SDGsについて知りたい」など様々である。そのため、活動前に本活動プログラムを実施する目的について団体内で共有し、活動後はその目的を踏まえて振り返ることが望ましい。

本活動プログラムはSDGsを深く学ぶというよりも、SDGsを知るきっかけとすることを目指している。体験的な要素を取り入れていることで、楽しみながら学ぶことができ、きっかけ作りに適したものとなっている。また、事前学習→本活動プログラム→事後学習という流れをつくることで、学びの質を高めることが期待できる。

### Ⅲ. 教材・教具

#### 1. 準備するもの

##### (1) 個人

筆記用具、帽子、水筒、時計、必要に応じて雨具

##### (2) 団体

解答用紙、救急バッグ、ミッションに必要な物品（「命のメジャー」<sup>4</sup>）：公益財団法人日本ユニセフ協会ホームページより印刷可）

#### 2. 当所が貸し出すもの

所内マップ、模範解答、バインダー、ミッションに必要な物品（目標11「ごみの分別をしてみよう！」）

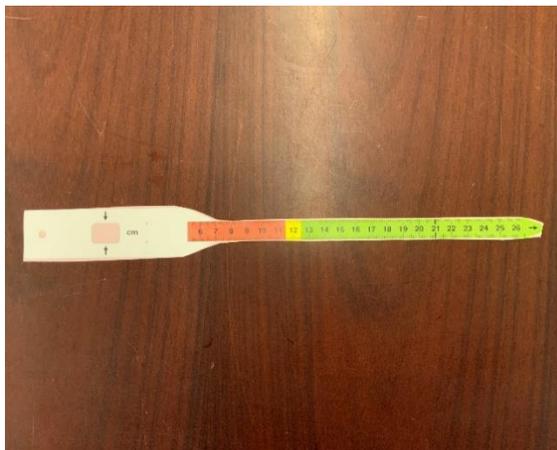


図1 「命のメジャー」

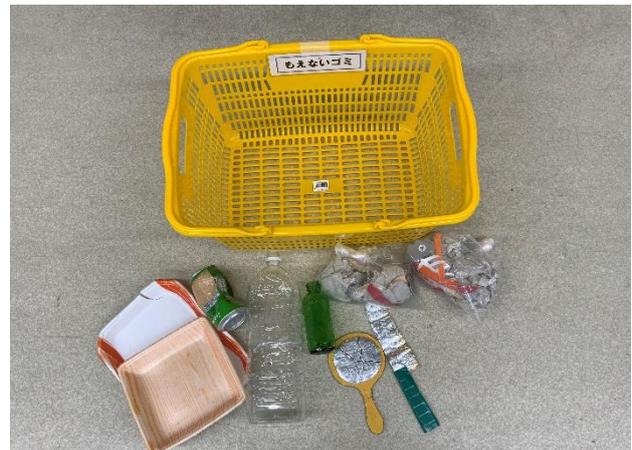


図2 目標11「ごみの分別をしてみよう！」に必要な物品

# SDGs ミッションウォークラリー マップ



- ・地図に示された①～⑱の番号の近くにポイントがあります。
- ・なぜその場所(施設)に、その番号のポイントがあるのか考えてみましょう。
- ・グループでまとまって行動しましょう。

2024.4.1

図3 所内マップ



## SDGs ミッションウォークラリー

### 5

ジェンダー平等を  
実現しよう

**どんなことを目指すの？**

男の子だから黒色？青色？女の子だから赤色？ピンク色？みんな好きな色はそれぞれです。性別で好きなものや仕事を決めず、みんな平等に暮らせるようにしようという目標です。

引用: 国連開発計画 HP: SDGs 関係資料

**世界や日本の現状は？**

ある国では、学校に通うことが許されず、文字も読み書きも教わってもらえない子供たちがたくさんいます。一体、どんな理由でしょうか。

A: 男の子だから  
B: 女の子だから  
C: 学校に通えない子供はいない

参考: ユニセフ

図 9 パネル (ミッション 5)

## SDGs ミッションウォークラリー

### 6

安全な水とトイレ  
を世界中に

**どんなことを目指すの？**

世界には、家に水道やトイレがなくて、手を洗うこと、うがいをするのができない人がいます。みんながきれいな水やトイレを使えるようにしようという目標です。

引用: 国連開発計画 HP: SDGs 関係資料

**世界や日本の現状は？**

世界で、水道水をそのまま飲む国はいくつありますか。

A. 12 개국  
B. 52 개국  
C. 152 개국

参考: 国土交通省 (2021 年)

**ミッションに挑戦!**

トイレはどれだ?

図 10 パネル (ミッション 6)

## SDGs ミッションウォークラリー

### 7

エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに

**どんなことを目指すの？**

世界には、今も木や動物のふんを燃やした火で料理をし、家で電気やガスが自由に使えない人がいます。みんなが電気やガスなどのエネルギーを使えるようにしようという目標です。

引用: 国連開発計画 HP: SDGs 関係資料

**世界や日本の現状は？**

世界で、電力のない生活を送っている人はどのくらいいるでしょうか。

A. 10 人に 1 人  
B. 100 人に 1 人  
C. 1000 人に 1 人

参考: ユニセフ (2022 年)

図 11 パネル (ミッション 7)

## SDGs ミッションウォークラリー

### 8

働きがいも  
経済成長も

**どんなことを目指すの？**

健康な人と障害がある人が、同じ仕事をしているのに、もらえるお金がちがうという差別を受けている人がいます。みんなが働きやすい環境を作って、笑顔で仕事ができるようにしようという目標です。

引用: 国連開発計画 HP: SDGs 関係資料

**世界や日本の現状は？**

世界には、働きたいけれど働けない人がおおよそのくらいいるでしょうか。

A: 200 人  
B: 2000 人  
C: 2 億人

参考: 国際労働機関 (ILO)

図 12 パネル (ミッション 8)

## SDGs ミッションウォークラリー

### 9

産業と技術革新の  
基盤をつくらう

**どんなことを目指すの？**

働きたいのに道路がなく、車が通れなかったり、仕事の種類が少なかったりして困っている人がいます。道路を作ったり、新しい仕事や場所を作ったりして、安心して働くことができる環境を作ろうという目標です。

引用: 国連開発計画 HP: SDGs 関係資料

**世界や日本の現状は？**

インターネットを個人で使うことができるのは世界人口の何%でしょうか。

A: 49%  
B: 67%  
C: 92%

参考: 国際電気通信連合 HP [ITU-ICT 統計] (2024 年 1 月)

図 13 パネル (ミッション 9)

## SDGs ミッションウォークラリー

### 10

人や国の不平等  
をなくそう

**どんなことを目指すの？**

はだの色や障害があること、生まれた場所など、両りどちがうだけで、差別を受けている人がいます。でも、自分と金で同じ人はいません。みんな同じように暮らせるようにしようという目標です。

引用: 国連開発計画 HP: SDGs 関係資料

**世界や日本の現状は？**

世界で最も裕福な 8 人は、経済的にめくまれない人の何分のお金を持っているでしょうか。

A: 36 人  
B: 360 万人  
C: 36 億人

参考: 国際非政府組織 (NGO)

図 14 パネル (ミッション 10)

## SDGs ミッションウォークラリー

### 11

住み続けられる  
まちづくりを

**どんなことを目指すの？**

地震や大雨などの災害で家がこわれて住めなくなってしまうように、災害に強いまちをつくり、もっとまちを良くするために、みんながまちづくりに参加しようという目標です。

引用: 国連開発計画 HP: SDGs 関係資料

**世界や日本の現状は？**

世界ではどのくらいの人が、都市に住んでいるでしょうか。世界の人口は 77 億人。

A. 約 15 億人  
B. 約 35 億人  
C. 約 70 億人

参考: 国際連合広報センター (2019 年)

**ミッションに挑戦!**  
ごみの分別をしてみよう!

図 15 パネル (ミッション 11)

## SDGs ミッションウォークラリー

### 12

つくる責任  
つかう責任

**どんなことを目指すの？**

料理を作っても、食べきれなかったり食材が余ったりしたらどうしますか。作る人も買う人も、必要な数だけにして、ゴミをふやさないようにしようという目標です。

引用: 国連開発計画 HP: SDGs 関係資料

**世界や日本の現状は？**

日本で 1 年間に捨てられる食品の量は約 612 万トンで、これは国民一人あたりが毎日茶碗わん何い分の食料を捨てている量でしょうか。

A: 捨ててない  
B: 1 はい  
C: 100 はい

参考: 農林水産省・環境省 (2017 年)

図 16 パネル (ミッション 12)

## SDGs ミッションウォークラリー

### 13

気候変動に  
具体的な対策を

**どんなことを目指すの？**

気温が高くなり、暑さが体調が悪くなったり、雨が降らなくて食べ物や育たなかったりしたら、どうなるでしょうか。わたしたちだけではなく、地球で暮らす動物も草も花も魚も、みんなが住み続けられる地球を残そうという目標です。

引用: 動物のHP: SDGs実践資料

**世界や日本の現状は？**

人間の生活の影響によって、生き残れない可能性のある生き物は、地球上に何種類いるでしょうか。

A: 約10万種  
B: 約100万種  
C: 約1000万種

引用: 国際連合広報センター(2019年)

図 17 パネル (ミッション 13)

## SDGs ミッションウォークラリー

### 14

海の豊かさを守ろう

**どんなことを目指すの？**

海にはたくさんの魚や動物、海藻などが暮らしています。海の生き物を守るため、よごした水を海に流したり、ゴミを海に捨てたりしないようにして、海を大切にしようという目標です。

引用: 動物のHP: SDGs実践資料

**世界や日本の現状は？**

わたしたちがふんだん使っているペットボトルやビニールぶくろなどのプラスチックゴミの総量は年間どれくらい海に流れているでしょうか。

A: 8万トン  
B: 80万トン  
C: 800万トン

参考: 国際連合広報センター(2018年)

図 18 パネル (ミッション 14)

## SDGs ミッションウォークラリー

### 15

陸の豊かさも  
守ろう

**どんなことを目指すの？**

地上にもたくさんの動物や木、草が暮らしています。木や草は動物たちの家にもご飯にもなります。地上の生き物を守るために、木を切りすぎないようにしたり、小さな木を植えたりして大切に守っていくという目標です。

引用: 動物のHP: SDGs実践資料

**世界や日本の現状は？**

現在、地上にいる両生類のうち何%が絶滅の危機にさらされているでしょうか。

A: 30%  
B: 50%  
C: 80%

参考: 国際自然保護連合日本委員会

図 19 パネル (ミッション 15)

## SDGs ミッションウォークラリー

### 16

平和と公正を  
すべての人に

**どんなことを目指すの？**

世界では、今も戦争をしている国もあります。悪いことをしてしまう人もいます。戦争や暴力、犯罪などをなくして、みんなが安心して暮らすために、平和な世界を作っていくという目標です。

引用: 動物のHP: SDGs実践資料

**世界や日本の現状は？**

紛争などが原因で住む場所を迫られ、世界では何秒かに1人が危険な場所から移動しなければならない状況にあります。移動しなければならないのは何秒に1人でしょうか。

A: 2秒に1人  
B: 120秒に1人  
C: 300秒に1人

参考: 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)(2019年)

図 20 パネル (ミッション 16)

## SDGs ミッションウォークラリー

### 17

パートナーシップで  
目標を達成しよう

**どんなことを目指すの？**

一人では世界の目標を達成することは難しいです。でも、みんなのための目標だから、みんなで仲良く、目標に向かってがんばろうという目標です。

引用: 動物のHP: SDGs実践資料

**世界や日本の現状は？**

SDGsの目標を達成するために必要なのは次のうちどれでしょうか。

A: 数か国が進める  
B: 何もしなくても達成する  
C: 世界中のすべての人が協力する

### ミッションに挑戦!

次にどのゴールへ行くか、「みんな」で相談して決めよう!

図 21 パネル (ミッション 17)



図 22 所内に設置しているパネル

#### IV. 活動プログラム

##### 1. 活動計画（内容）

	時 間	項 目	内 容	備 考
活動内容 (手順)	事前	グループ 編成とミ ーティン グ (当所、 学校 など)	<input type="checkbox"/> グループ編成を行う。 <input type="checkbox"/> SDGs について学ぶ。 <input type="checkbox"/> 目的や活動方法に応じたグループ ミーティングを行う。 例・制限時間内にどう回るかを話し 合う。 ・グループの約束や目標を決め る。	バインダー などの貸出 しを希望す る場合は、 事前に班数 を当所に報 告する。
	15分	活動方法 の説明と 安全指導	<input type="checkbox"/> 解答用紙を配付する。 <input type="checkbox"/> 活動の方法を説明する。 <input type="checkbox"/> 安全に関する注意を行う。 <input type="checkbox"/> グループごとにスタートする順番 を決める。 <input type="checkbox"/> 軽くウォーミングアップを行う。	※指導は 団体責任者 (引率者) が 行う。
	60～90 分	活動	<input type="checkbox"/> （事前ミーティングを行わない場 合）回る順序などを話し合う。	
	15～30 分	集合  片付け 振り返り (当所、 学校 など)	<input type="checkbox"/> グループメンバー全員の人数や体 調などを確認する。 <input type="checkbox"/> 団体責任者（引率者）に解答を伝 える。 <input type="checkbox"/> 学んだことや気付いたことをグル ープで共有する。 <input type="checkbox"/> SDGs の目標達成に向けて、「行動 宣言」を考える。 例・「食べ残しをしない！」 <input type="checkbox"/> 貸出物品を返却する。	振り返りは 他の活動を 踏まえて、別 の活動プロ グラムとし て事後に実 施すること もできる。

想定されるリスク	<input type="checkbox"/> 転倒、木の枝との接触によるけが <input type="checkbox"/> 所内を通行する車両との衝突 <input type="checkbox"/> 他団体の活動への支障
----------	---

## V. 実践活動・活用事例

### 1. 実施団体からのアンケート結果（実施団体数 25 団体）

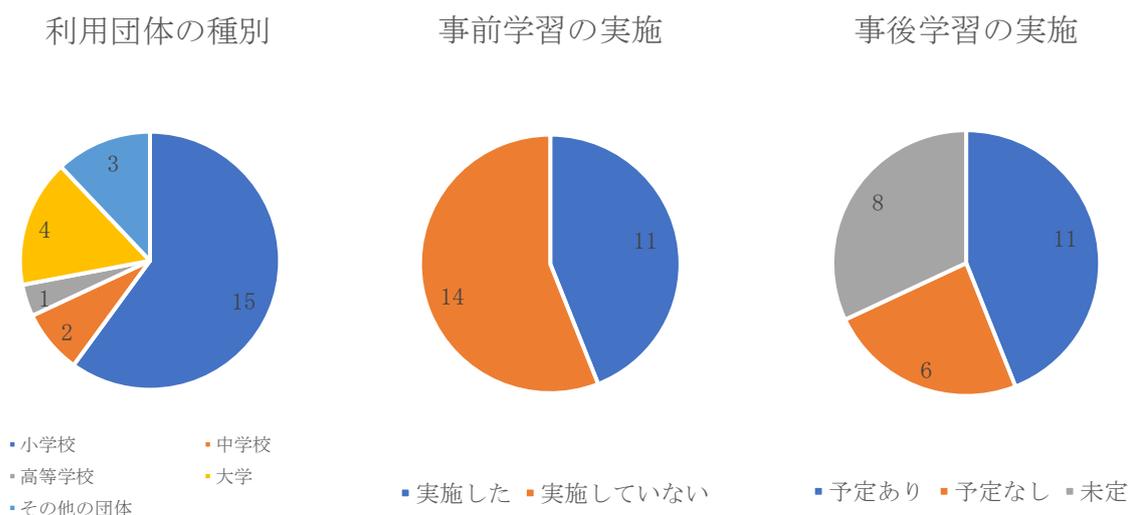


図 23 実施団体からのアンケート結果

実施団体の種別としては、小学校が多くを占めていた。また、その他の団体の中でも小中学生が含まれるガールスカウトや県・市町の教育委員会主催事業などの団体が多く、小学生から中学生が主な利用者となっており、当所が意図するターゲット（小学生～中学生）に実施されていた。

実施団体の傾向としては、当所で本活動プログラムを実施する前に SDGs に関する事前学習を行っていない団体の方が多かった。本活動プログラムは、SDGs を知るきっかけになれば良いと考えてはいるが、事前事後の学習を行うことで SDGs についての学びを深めることにつながるため、この「学びの深まり」の大切さを団体へ積極的に伝え、より効果的な運用に努める必要がある。また、事前学習をどのように行ったかについては、『『総合的な学習の時間』などを活用し、調べ学習を行った』という団体が多かった。

### 2. 活用事例

①静岡県御殿場市や小山町の小学校では、各自が興味を持った SDGs の目標を選び、図書室の本やタブレットを使って調べた後、プレゼンテーション資料を作って発表し合い、内容を共有した。

②東京都内の私立大学では、「御殿場市内で実施されている SDGs の取組」や「御殿場市を拠点とする公共施設や企業の SDGs の取組」について調べた。

③御殿場市の小学校では、当所のパネルに記載されたミッションではなく、子供たちが考えたオリジナルのミッションに変更して実施した。

④静岡県内のガールスカウトでは、事前に「SDGs 人生ゲーム」(市販のもの)<sup>5)</sup>を活用したが、普段の活動の中でSDGsにつながるような話をし、意識を高めていた。事後に目標14(海の豊かさを守ろう)に関連付けて、オリジナルの魚釣りゲームを制作・活用し、プラスチックや海洋ごみが海の生物に与える影響を考えるきっかけにしたり、目標11(住み続けられるまちづくりを)に関連付けて、イラストの描かれたカードを「燃えるごみ」「燃えないごみ」「リサイクル物」に仕分けするごみ分別ゲームを行ったりした。また、これらを当所の施設開放事業「オープンハウス」にて来場者にも提供した。



図 24 ミッション1(「命のメジャー」で腕の周りを測ってみよう)に取り組む様子  
参加者同士が協力して取り組んだ。メジャーの使い方やその意味することについて、助言が必要そうな様子が見られた。



図 25 本活動プログラムを開発していく段階で、主催事業として実施した体験会の様子  
ガールスカウトの指導者や地元の小学校教員にも参加いただき、本活動プログラムの改善を図った。

## VI. 効果

本活動プログラムの効果としては、次の三点を挙げることができる。以下に参加者の反応や変容（指導者の感想など）を示す。

### 1. 効果 1

グループで意見交換しながら回る順序を決定し、ポイントを探しながら「クイズ」「ミッション」に取り組むことで、コミュニケーション能力や協調性を養うことができる。

#### （1）指導者等

- ①班の友達と協力して問題に取り組む姿が見られた。（小学校）
- ②グループで活動したため、協力するという点についても意識が高まった。（小学校）
- ③内容の難しいところもあったが、多くが三択だったので、友達と協力しながら答えていた。（小学校）
- ④子供たちは学校で学んだ知識や自分が知っていることなどのアイデアを出し合いながら解答していた。（小学校）

### 2. 効果 2

できるだけ多くのポイントを回ることを目標にすることで、本活動プログラムへの積極的な参加を促しながら、SDGs の目標について学ぶことができる。

#### （1）指導者等

- ①すぐに取り組める内容はさっそく取り組もうとする様子が見られた。（小学校）
- ②環境や自然、企業の取組などに興味を持つ子が見られた。図書室に SDGs コーナーを設置して図書を置いたところ、立ち止まる子が出てきた。（中学校）
- ③多くの児童が SDGs の言葉は知っていたが、具体的なことはあまり理解していなかったため、具体的なことを知る良い機会となった。（小学校）
- ④子供の予想に反した答えがあり、ゴール後に「初めて知った」という驚きの声を聞くことができた。（小学校）
- ⑤解説文の、貧困の中で暮らしている人口やごみが出る量などに驚きや関心を示しながら実施していた。（小学校）
- ⑥小学生にも分かりやすい解説である。（小学校）

#### （2）参加者

- ①世界の実態を知ることができて良かった、学びが多かった。（小学校）
- ②今後の生活に生かしていきたい。（小学校）
- ③自分にできること、小さいことから努力することが大切である。（小学校）
- ④答えに悩んだ問題もあったため、自身が思っているよりも世界情勢や社会課題について大学生としてより関心を寄せなければいけないと感じた。（大学）
- ⑤持続可能な社会を目指す上で色々な課題があることはなんとなく知っていたが、詳しい

数字としてのデータなどはそこまで理解がなかったので、SDGsについて考える良い機会になった。(大学)

⑥前学年で総合的な学習の時間に SDGs について学習し、その学習した内容があったため、分かる問題もあった。(小学校)

### 3. 効果3

事後学習(振り返り)の中で、自分に何ができるのか(行動宣言)を考えることで、SDGsをより自分事として捉えることができ、社会への関心や自らの行動力を高めることができる。

#### (1) 指導者等

①事前学習を実施したこともあり、SDGs に対する意識が高まっている。残食をなくすことや節電などを心掛ける児童が増えている。(小学校)

②世界には自分たちと違い、困っている人がいることに気づいたため、給食の残食を減らそうと呼び掛けたり、ごみを拾おうとしたりする児童がいた。(小学校)

③「水道から水が飲める国はわずかである」、「学校に通うことができない子どもがいる」など、普段の自分たちの生活を振り返ることができた。また、「日常のニュースを気に掛けよう」と言う子もいた。(小学校)

④夕食、朝食の時間に、ご飯を無駄にしないことを意識していた。(小学校)

#### (2) 参加者

①問題を解いたり体験したりして、世界にはこんな人もたくさんいるなあと思い、私もごみを減らすことや募金をするを頑張ろうと思った。(小学校)

## VII. 有識者のコメント

静岡大学地域創造教育センター長・教授(現静岡大学地域創造教育センター特任教授)阿部耕也氏の協力を得て本活動プログラムを試行実施し、開発を進めてきた。協議の中で出た指導内容については以下のとおりである。

①その場限りのものではなく、学校や普段の生活でも思い出せるものにしたい。

②地域のクイズを入れてみてはどうか。

③SDGs は小学生でも十分に担い手になり得る。(自分事として考えられる)

④広い敷地を利用できるという強みはあるが、時間がかかってしまう。

⑤半日のプログラムなので、SDGs を深く学ぶというよりは、きっかけとして意識付ける。

⑥いかに持続可能なプログラムとしていくか。

## VIII. その他

有識者のコメント、本活動プログラムの実施の様子、及び指導者等・参加者の振り返りを受けて、今後の課題としては以下のような点が挙げられる。

①世界の情勢を踏まえ、各年度で情報を更新する必要がある。

- ②事後解説を読むのに時間がかかる。
- ③知識があるかないかに依存したのではなく、計算をしたり少し捻って考えたら答えが分かるような問いの出し方にしたりするともっと参加しやすい。
- ④問題に出てくる数字が実感のわかないものになっている。→世界の人口などは、母数が大きいので、クラス単位に置き換えて問題を作るなど、身近に感じられる数の方が想像しやすい。
- ⑤SDGs 達成に向けた取組や世界の現状を、いかに自分事として捉えられるような内容にできるかを工夫する必要がある。
- ⑥対象者になるべく身近に考えやすい内容で、さらに体験的要素を含めたものとなるように工夫する。
- ⑦小学生が簡単と捉える一方、大学生が難しいと捉えているというアンケートの回答があるなど、問題の難易度の感じ方に差異が見られる。
- ⑧地域課題と関連させた問題を作るなど、自分が住んでいる地域の実情を知ったり地域課題にどう取り組むかを考えたりする機会につながるようにしたい。
- ⑨自分たちのねらいに沿った活動プログラムになるようにアレンジを加えていくことが今後、本活動プログラムのブラッシュアップにつながる。

#### 引用文献・参考文献・注

- 1) 文部科学省「持続可能な開発のための教育 (ESD: Education for Sustainable Development)」文部科学省、<https://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm>、2025/2/13
- 2) 静岡県・静岡県教育委員会「静岡県教育振興基本計画 2022→2025」静岡県、<https://www.pref.shizuoka.jp/kodomokyoiku/kyoiku/sougoukyoiku/1051282/index.htm>、2025/2/13
- 3) 御殿場市教育委員会「第2期御殿場市教育振興基本計画 令和3年度～令和7年度」御殿場市、<https://www.city.gotemba.lg.jp/kyoiku/d-1/d-1-6/1911.html>、2025/2/13
- 4) 公益財団法人日本ユニセフ協会「子どもと先生の広場」公益財団法人日本ユニセフ協会、[https://www.unicef.or.jp/kodomo/osirase/2017/03\\_01.html](https://www.unicef.or.jp/kodomo/osirase/2017/03_01.html)、2025/2/13
- 5) 金沢工業大学 SDGs 推進センター「Beyond SDGs 人生ゲーム」金沢工業大学、<https://www.kanazawa-it.ac.jp/sdgs/jinsei/j-games/>、2025/2/13
- 6) 公益財団法人日本ユニセフ協会「持続可能な世界への第一歩 SDGsCLUB」公益財団法人日本ユニセフ協会、<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/>、2025/2/13
- 7) 国際連合食糧農業機関 (FAO) 駐日連絡事務所「世界の食料安全保障と栄養の現状」国際連合食糧農業機関 (FAO) 駐日連絡事務所、<https://www.fao.org/japan/news/detail/sofi2023-pr/jp>、2025/2/13
- 8) 国土交通省「令和3年版 日本の水資源の現況」国土交通省、[https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/mizukokudo\\_mizsei\\_tk2\\_000028.html](https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/mizukokudo_mizsei_tk2_000028.html)、2025/2/13
- 9) 国際労働機関「世界の雇用及び社会の見通し：動向編 2020年版」国際労働機関、<https://www.ilo.org/ja/publications/%E4%B8%96%E7%95%8C%E3%81%AE%E9%9B%87%E7%94%A8%E5%8F%8A%E3%81%B3%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E3%81%AE%E8%A6%8B%E9%80%9A%E3%81%97%EF%BC%>

88weso%E5%8B%95%E5%90%91%E7%B7%A82020%E5%B9%B4%E7%89%88%E3%83%BB%E3%82%A8%E3%82%B0%E3%82%BC%E3%82%AF%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%96%E3%82%B5%E3%83%9E%E3%83%AA%E3%83%BC、2025/2/13

10) 国際電気通信連合「情報社会の測定レポート 2018」国際電気通信連合、  
<https://www.itu.int/en/ITU-D/Statistics/pages/publications/misr2018.aspx>、  
2025/2/13

11) デボラ・ハードゥーン「An Economy for the 99%」オックスファム・インターナショナル、  
<https://www.oxfam.org/en/research/economy-99>、2025/2/13

12) 国際連合広報センター「SDGs を 17 の目標ごとにわかりやすく紹介したチラシ、SDGs シリーズ「なぜ大切か」【改訂版ができました】」国際連合広報センター、  
[https://www.unic.or.jp/news\\_press/info/24453/](https://www.unic.or.jp/news_press/info/24453/)、2025/2/13

13) 農林水産省「食品ロスの現状を知る」農林水産省、  
[https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/2010/spe1\\_01.html](https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/2010/spe1_01.html)、2025/2/13

14) 国際連合広報センター「国連報告書が世界に「警告」：100 万種の生物が絶滅の危機に」国際連合広報センター、  
[https://www.unic.or.jp/news\\_press/features\\_backgrounders/33018/](https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/33018/)、2025/2/13

15) 国際連合広報センター「やめよう、プラスチック汚染」国際連合広報センター、  
[https://www.unic.or.jp/activities/economic\\_social\\_development/sustainable\\_development/beat\\_plastic\\_pollution/](https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/beat_plastic_pollution/)、2025/2/13

16) 国際自然保護連合「46,300 種以上の生物に絶滅の危惧がある。」国際自然保護連合、  
<https://www.iucnredlist.org/ja>、2025/2/13

17) 国連 UNHCR 協会「UNHCR の難民支援」国連 UNHCR 協会、  
<https://www.japanforunhcr.org/appeal/trend>、2025/2/13

18) 静岡市「SDGs 関連資料」静岡市、  
<https://www.city.shizuoka.lg.jp/s2934/s009128.html>、2025/2/13